

その後、小林^{こばやし}、桧沢^{ひぎざわ}の小学校でも校長先生をつとめました。大正十五年（一九二六年）伊策は、長江^{ながえ}二川^{ふたがわ}（現在の江川^{えがわ}）小学校の校長先生を最後に、退職することになりました。

思えば、長かった三十年間でした。いろいろなことがありました。安張^{やすはり}の大竹家を出て、豊成^{とよなり}の星家^{ほしけ}の養子となって、星伊策と名のるようになったのは、二十四歳のときのことでした。四十歳をむかえた大正四年には、教育のためにつくした人として福島県から表彰^{ひょうしょう}されたこともありましたが、しかし、その三十二年間、いつも伊策の頭から離れなかったのは、子どもたちへの教育のしかた、特に珠算の教え方のくふうでした。

あちらこちらで開かれる先生方の集りのたびに、伊策は、珠算の教え方についての自分の考え方を発表しました。しかし、先生方は、あまり熱心に聞いてくれませんでした。